

2022鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 鈴鹿サンデーロードレース RACE REPORT

■開催概要

- シリーズ名称 : MFJ公認・承認 2022 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 鈴鹿サンデーロードレース
- 主催 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 会場 : 鈴鹿サーキット 東コース (2輪/2.243km)
- 参加 : 総参加台数/168台
 インターJ-GP3.....6台 (内、HRC NSF250R Challenge.....1台)
 ナショナルJ-GP3.....15台 (内、HRC NSF250R Challenge.....9台)
 インターJP2502台
 ナショナルJP250.....17台
 ナショナルST60037台
 インターST600.....9台
 インターJSB100022台
 インターST10009台
 ナショナルST1000.....27台
 ST600R (Revival)24台
- 開催日 : 2022年4月10日 (日)
- 天候/路面 : 晴れ/ドライ

★次回レース予定

2022鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 鈴鹿サンデーロードレース/2022 JP250 4時間耐久ロードレース

■開催日/2022年5月14日 (土)・15日 (日)

■会場/鈴鹿サーキット 国際レーシングコース・フルコース (2輪/5.821km)

■開催クラス/インターJSB1000、インター/ナショナルST1000・ST600・J-GP3・JP250 4時間耐久ロードレース

■主催/ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
 ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>



当日の最高気温は23度。春を通り越し、初夏に近い気候のもとで開催された

2022シーズンの鈴鹿サンデーロードレース 全てのカテゴリーが行われて本格的に開幕。 マシンやクラスを変えて臨むライダーも多く参戦!

CBR250R Dream CupエキスパートクラスとCBR250RR Dream Cupの2カテゴリーが「FUN & RUN! 2-Wheels (“ファンラン”）」への移行期間として今シーズンは鈴鹿サンデーロードレースとして開催されるとともに“ファンラン”と併催されることとなった。“ファンラン”の開幕戦は3月12日(土)。それから約1カ月後の4月10日(日)に鈴鹿サンデーロードレース第2戦が行われた。前述の2カテゴリー以外の開幕戦となったこのレースは、入場ゲートにて検温が実施され、入場が制限された場内ではマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保が徹底されるなど、まだまだ新型コロナウイルス感染拡大に対する対策を講じた上で開催された。

特に多くの参加台数を集めたのはナショナルST600。今回は37台がエントリーしたため、A・Bの2グループに分けて公式予選が行われた。昨年このカテゴリーを走り、第4戦では激しいトップ争いを展開した末に転倒、最終戦でポールtoウインを飾った吉田愛乃助がナショナルST1000にスイッチしたこともトピックだった。また、全日本ロードレース選手権のJ-GP3を戦っている中島元気が久しぶりにインターJSB1000に参戦した。こちらも普段は全日本J-GP3を戦っている高橋直輝も中島と同じ「Honda浜松エスカルゴRT」からインターJSB1000に参戦。二人は鈴鹿8耐のテストを兼ねての参戦だったようだ。

2011年式という型落ちのスズキGSX-R600を駆り、2020年の第3戦ナショナルST600で優勝を飾って注目を集めた屋代原野が今回はインターST1000に参戦。このようにマシンやクラスを変えて参戦するライダーも多かった。このシリーズは「純粋にレースを楽しみたい」というエンジョイ派から全日本選手権への昇格を狙うライダーまで幅広い層が集結することでも知られる。特に小排気量のレース専用マシンで争われるJ-GP3には世界を目指す若手ライダーが多く参戦。今回も計10名のティーンエイジャーが集結した。

今回は5月14日(土)・15日(日)の2日間に渡って行われる第3戦。この日はインターJP250とナショナルJP250の混走による4時間耐久レースの他、Kawasaki Ninja ZX-25Rのワンメイクサーキットイベントである「Ninja Team Green Cup」も開催される。今シーズン初のフルコース大会であるこの日のレースにも是非注目していただきたい。



参戦マシンも見どころのひとつ。2021年式のHonda CBR600RRなど、新型モデルも参加した

2022鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 レースレポート(1)

■インター／ナショナルJP250

2番グリッドスタートの中川涼がスタートで出遅れる。良いクラッチミートを披露したのは2列目4番グリッドスタートの南博之。それにポールポジションスタートの小野拓也が続く。南、小野、3番グリッドスタートの三浦雄一のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、南と小野がテールtoノーズのバトルを展開。小野が4周目の1コーナー進入で南をパスしてトップに立つ。若干後方で三浦、中川、落合柊、福井宏至もバトルを披露。その4台がトップグループに接近していく。9周目の1コーナーで福井がトップに。福井、南、中川がスリーワイド状態でファイナルラップに突入すると南がトップチェッカーを受けた。



インターJP250表彰式（優勝：小池信一郎、2位：瀬古直樹）



ナショナルJP250表彰式（優勝：南博之、2位：中川涼、3位：小野拓也）

2022鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 レースレポート(2)

■インターST600

ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの堀井颯大。それにポールポジションスタートの辻本範行が続く。堀井、辻本、2番グリッドスタートの村瀬豊が一時的にトップグループを形成。3周目に辻本と村瀬が堀井をパスするが、続く4周目の1コーナーでは堀井が村瀬を抜き返す。堀井はさらに5周目の1コーナーでは辻本をもパスしてトップに返り咲く。堀井と辻本は7周目のメインストレートで横並びの状態に。その後方で村瀬、福田琢巳、鈴木慎吾、成田彬人もテールtoノーズのバトルを展開する。トップグループは再び集団に。ファイナルラップの2コーナーで堀井をパスしてトップに立った辻本の優勝が決まった。



インターST600表彰式 (優勝:辻本範行、2位:堀井颯大、3位:福田琢巳)

■ナショナルST600

ポールポジションスタートの高居京平と3番グリッドスタートの遠藤晃慶が横並びの状態1コーナーへ。その後方に2番グリッドスタートの三上真矢が続く。高居、遠藤、三上の3台がオープニングラップから激しいバトルを披露。三上、遠藤、高居のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。高居が遠藤をパス。テールtoノーズの状態で行き続ける三上、高居、遠藤、塚原溪介から若干遅れて渡辺維吹が5番手の座をキープする。徐々に三上は単独トップに。バックマーカーが出現しかけたが、そのバックマーカーが転倒。三上にとって有利な展開となる。結局、三上がトップチェッカー。2位は塚原、高居が3位となった。



ナショナルST600表彰式 (優勝:三上真矢、2位:塚原溪介、3位:高居京平)

■ST600R (Revival)

2番グリッドスタートの柴田剛がスタートで出遅れる。ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの小松孝章。小松はスタート直後から後続を引き離しにかかる。その小松、3番グリッドスタートの栗田学、4番グリッドスタートの竹下信矢のオーダーでオープニングラップを終了。単独トップを走る小松の後方で栗田も単独2位となる。その後方では竹下、東勇気らがグループを形成。そこから抜け出した竹下が栗田のテールを捉える。竹下は栗田をパスして2番手に。長谷川聖が栗田、東に接近し、虎視眈々とパッシングを狙う。結局、小松がポールtoウィン。竹下、栗田、東、長谷川と続いてチェッカーを受けた。



ST600R (Revival) 表彰式 (優勝:小松孝章、2位:竹下信矢、3位:栗田学)

2022鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 レースレポート(3)

■インターJSB1000／ST1000

2列目5番グリッドスタートの加藤高史が良いクラッチミートを披露する。JSB1000ライダーを抑えてポールポジションを獲得したST1000の中村修一郎と並び、その加藤が1コーナーへと突入。中村がトップでオープニングラップを終了すると、加藤、4番グリッドスタートの高橋直輝がそれに続く。その3台がトップグループを形成。5周目の1コーナーで加藤が中村をパスしてトップに。しかしすぐに中村がトップに返り咲く。そのバトルの間に仲村優佑が集団に接近。高橋が遅れ始める。仲村が加藤、中村を立て続けにパスしたが、中村が逆転してトップチェッカーを受け、ST1000のウィナーに。総合2位の仲村がJSB1000を制した。



インターJSB1000表彰式（優勝：仲村優佑、2位：加藤高史、3位：高橋直輝）



インターST1000表彰式（優勝：中村修一郎、2位：花村峻一、3位：屋代原野）

■ナショナルST1000

吉田愛乃助が1コーナーまでに後続を若干引き離してホールショットを奪う。2番グリッドスタートの越智健仁がS字コーナーで吉田の背後に接近。吉田が再び越智を引き離すが、2周目のショートカットで吉田がアウトにはらんだことにより、吉田、越智がテールtoノーズの状態になる。しかし次第に吉田が単独トップに。越智も単独2番手となる。吉原匡徳、戸谷健司、中尾泰三、池田寛之の4台が3番手争いを展開。池田が中尾をパスする。その間も後続を引き離し続けた吉田が8秒486ものアドバンテージを築いてST1000デビューウインを飾った。2位は安定したペースでラップを刻んだ越智。戸谷が3位チェッカーを受けた。



ナショナルST1000表彰式（優勝：吉田愛乃助、2位：越智健仁、3位：戸谷健司）

2022鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 レースレポート(4)

■インター／ナショナルJ-GP3／ HRC NSF250R Challenge

2番グリッドスタートの八尋春葵が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。3番グリッドスタートの野澤秀典がそれに続く。八尋、野澤、4番グリッドスタートの川瀬啓一郎、ポールポジションスタートの松田基成のオーダーでオープニングラップを終了。その4台が集団を抜け出すことに成功すると、徐々に八尋と川瀬がトップグループ、さらに野澤と松田が3番手グループとなる。野澤をパスした松田は川瀬にも接近。川瀬、松田、野澤が激しい2番手争いを展開する。その間に独走状態を築いた八尋がトップチェッカーを受けると同時にインタークラスのウィナーに。総合2位の松田がナショナルクラスを制した。



インターJ-GP3表彰式 (優勝：八尋春葵、2位：川瀬啓一郎、3位：野澤秀典)



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝：松田基成、2位：岡田陽大、3位：豊田哲慎)

**Voice
of
Pick up
Riders**
-SUNDAY EDITION-
この日、キラリと光った
ライダーに一問一答

この日、キラリと光ったライダーに一問一答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

ナショナルST600クラスで優勝した

三上 真矢 選手 (21歳)
(Club Taira Promote/YAMAHA YZF-R6)



Q. 公式予選ではコンマ015秒差で2番手でした。どんな予選でしたか。

A. 昨年のNGK杯で初めて600に乗りました。ST600に参戦してまだ2年目です。今回のレースでは木曜日から乗り始めたのですが、まだ全然乗り方がわからない状態でした。徐々にマシンを理解できるようになり、タイムを出すことができました。

Q. オープニングラップの2コーナーでトップに立ってから後方を引き離しての優勝でしたね。

A. スタートが苦手なのですが、今回は自分なりにうまくスタートできたと思います。高いアベレージスピードで走る練習を続けてきたので、トップに立ってからはその成果を信じて走りました。直後に他のライダーがいないことがわかっていたので、後は自分との戦いでした。

Q. 今シーズンはどのような参戦予定ですか。

A. もてぎと鈴鹿の選手権にフル参戦する予定です。次もその次も勝ってチャンピオンを獲得したいです。今は速くフルコースを走りたい気持ちです。